現場報告：星野土建 星野将史
木組みと土壁のシェアハウス
入居者募集中！
木組み土壁の家を4人でシェアして住みませんか？

1 2 3

Like 0　ポスト

つくり手：星野さん（星野土建）

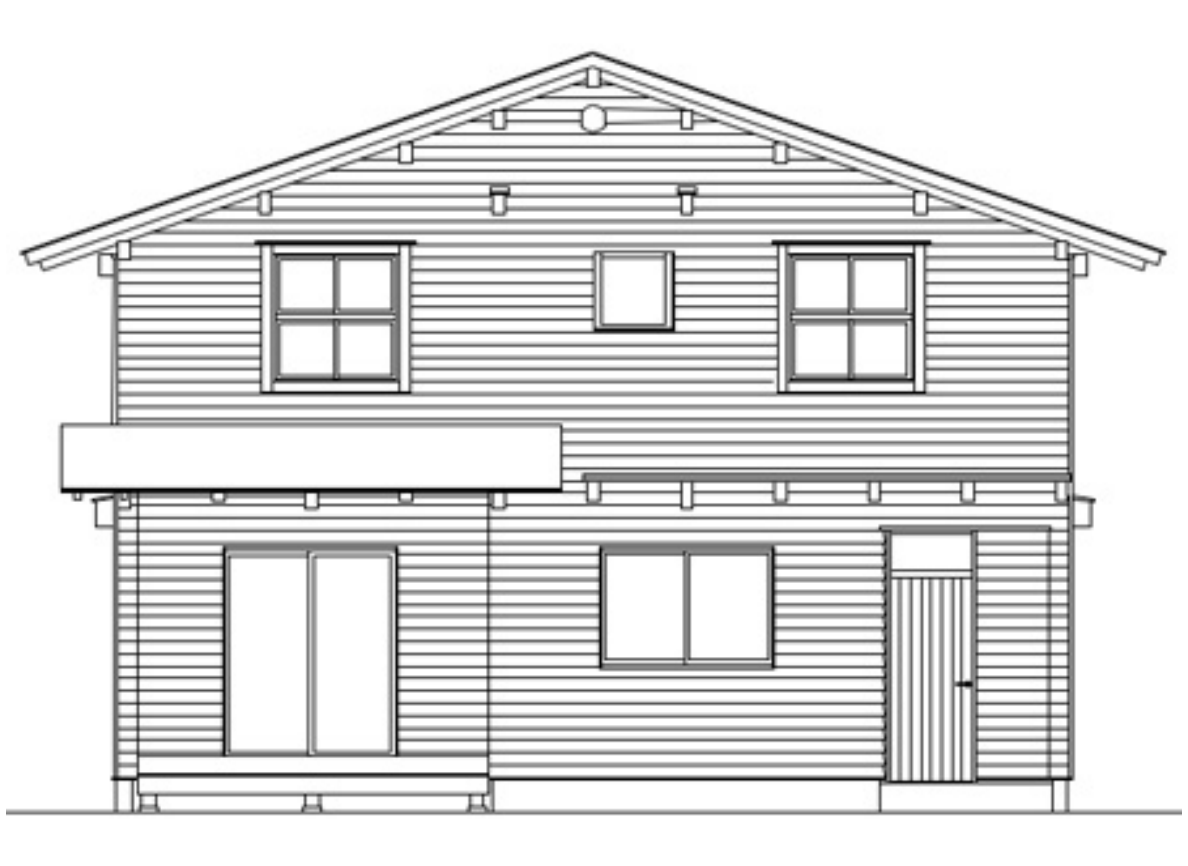
聞き手：持留ヨハナエリザベート

木の家ネットの神奈川の会員で、慶應義塾大学のキャンパスのある横浜市港北区日吉に、５代前から地域工務店として根付いている星野土建さん。「現代のライフスタイルに合った木の家づくり」を常日頃実践していますが、目下、伝統的な工法で木組み土壁の「シェアハウス」を施工中です。不動産事業も手がける星野土建の賃貸物件として、入居者を募集するというので、さっそく上棟と土壁の下地となるえつり作業のワークショップを取材してきました。

これまでにも木の家ネットのつくり手の施工物件として「コーポラティブ」は何例かあります。「コーポラティブ」とは、数家族が共同で所有する家を、話し合いながら設計し、工事費用などの経費を折半するという共同の持ち家です。「シェアハウス」は、持ち家ではなく、一軒の家を数人で共同使用する賃貸物件。星野土建がこの木組み土壁のシェアハウスの４人の店子（たなこ）の大家（おおや）となるのです。

所在地	神奈川県横浜市港北区日吉
アクセス	東急東横線日吉駅より徒歩8分
工法	木組み土壁による伝統的工法
間取り	木造２階建て 1階部分：台所、食堂、居間、バルコニー、風呂、トイレ ２階部分：個室（六畳の板の間＋押入）が計４間
設備	共用部分の設備（冷蔵庫、ガス台等）完備
駐車スペース	車不可。自転車、バイク可
契約費用	一年契約定期借款。敷金礼金なし、デポジット等あり
募集人数	４名
募集条件	男女問わず。単身者。社会人歓迎
入居開始予定	平成25年７月から入居予定
入居者決定の方法	面談の上、決定
問合せ/面談申込	星野土建のWebサイトに 入居希望者エントリーフォーム があります。

なぜ工務店でシェアハウスなのか？ 星野土建の星野将史さんにお話をうかがいましたが、本題に入る前に「シェアハウス」について、ざっと触れておきましょう。


星野土建が建設中のシェアハウス「ヨツバ・ロッヂ」立面図

シェアハウスという住まい方をご存知ですか？

高校または大学まで実家で暮らし、その後、別の町で仕事する、あるいは学ぶとしたら・・・どんなところに住むのでしょうか？ 昔でこそ「賄（まかな）い付き下宿」や、炊事場やトイレは共同で使い、共用の内廊下と扉を隔てて自分の部屋がある「貸間タイプのアパート」もありましたが、それは昭和までの話。会社や大学の寮に入るのでなければ、自分で家賃を払ってアパートかワンルームマンションを借りるというのが主流でしょう。台所もトイレも、そして銭湯が少なくなった今や、風呂までがいきなり「自分専用」になる「ひとり暮らし」が始まります。

家族から解放されての憧れの、ひとり暮らし。自由で気ままな反面、帰宅しても「お帰り」「ただいま」と言葉を交わすこともなく、ちょっぴり寂しくもあります。冷蔵庫、洗濯機、ガスコンロ・・・何から何まで自前で揃えるのも、結構大変です。そんな今、注目されているのが、ひとつの住居を、台所、風呂、トイレなどの設備は共有し、プライベートな部屋として個室を使う「シェアハウス」という形です。いわば、家族で住むような間取りの家に、他人同士で住むもの。共用設備はあらかじめ揃っているので、自分の身の回りの荷物だけで入居できます。最近は、不動産情報誌などでも「シェアハウス物件」という表示を見かけますし、シェアハウス専門の不動産屋さんやWebサイトも出てきています。

ひつじ不動産
オシャレオモシロフドウサンメディア
シェア住居探し
シェア住居とは？
ひつじ不動産について
不動産事業者様へ
シェア住居統計資料
house-review
カフェ的
興味津津
column
シェアハウス専門の情報Webサイト「ひつじ不動産」

シェアハウスは、もともと、ある期間だけ滞在する外国人の「宿に泊まるよりは長く滞在するけれど、自前でひとつの住居を賃貸し、生活用品の一切をまかなうほどではない」というニーズに応える形の、テンポラリーな住まい方として登場したそうです。それが次第に、日本人にも広まり、いまや、数ヶ月ではなく、数年という単位でシェアハウスに住む人も相当数います。

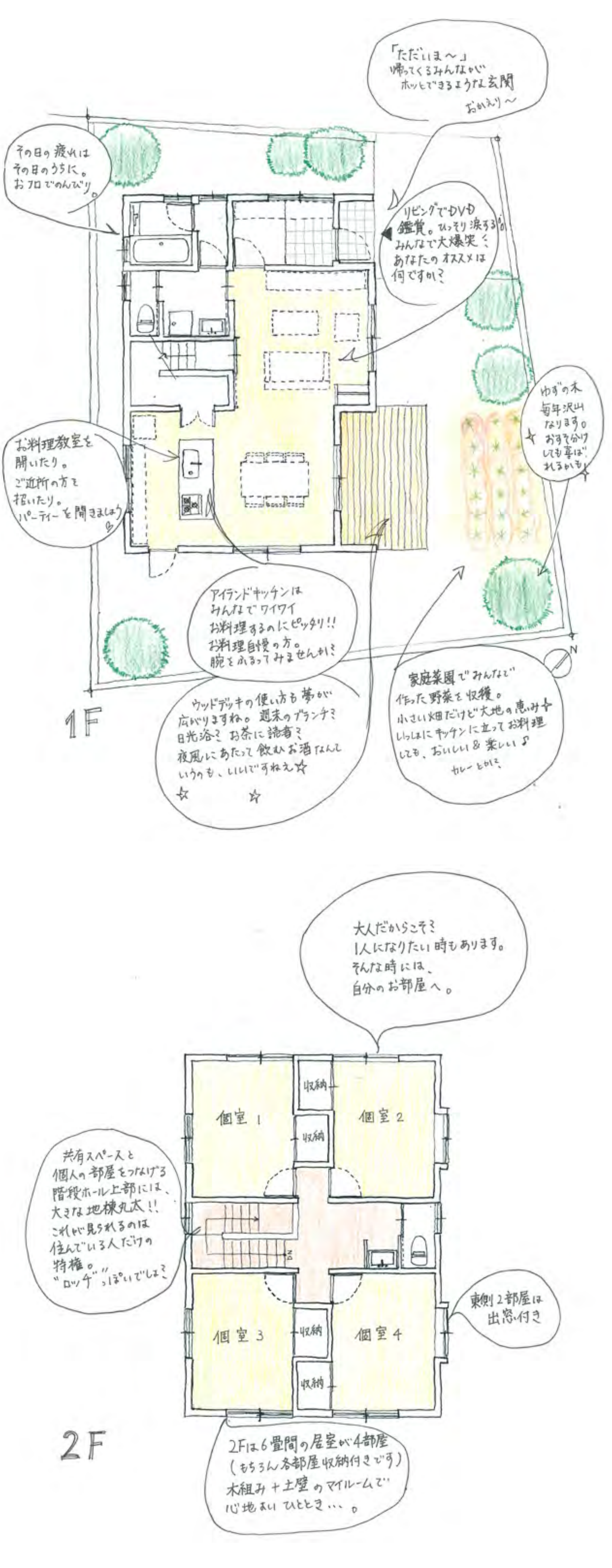
都会でひとり暮らしの限界

シェアハウスの利点のひとつは、リーズナブルであるということです。

自分の給料を稼ぐようになって、ようやく借りた「自分の城」といっても、寝るのもご飯を食べるのもくつろぐのも同じひとつの狭いワンルームマンション。ひとり暮らしとはいえ、洗濯機、テレビ、電子レンジ、冷蔵庫と、全種類の家電があふれかえり、水道光熱費がそれぞれにかかります。通勤に１時間以上かけて、ほとんど寝に帰るような生活であっても、可処分所得のうち、住居やインフラ維持にかかる費用の割合がかなり高いのが現実です。

シェアハウスとなれば、生活家電などの共用設備は、あらかじめ住居に備わっています。水道光熱費も、住人同士での割り勘で済みますし、自分がひとりになれる個室とは別に、ワンルームマンションより大きな台所やリビングなどがあり、住環境としてのクオリティーは確実にアップします。そのような条件の住居が、同じ価格帯でワンルームマンションを借りるよりも、より都心に近く借りられるケースもあります。

「原発はいらない」特集を組んだ時に「孤住」世帯の増加が家庭用電力使用量の増加に拍車をかけていること、「集住」という住まい方も、省エネを達成するひとつの有効な方法ではないかという提案を紹介しました。ひとり暮らしには消費の促進、裏返していえば「資源の無駄」という面があります。その点、シェアハウスはかなり合理的な住まい方といえるでしょう。


「ただいま～」
帰ってくるみんなが
ホッとできるような玄関
おかえり～
その日の疲れは
その日のうちに。
お风呂でのんびり。
リビングでDVD鑑賞。ひっそり涙する？
みんなで大爆笑？
あなたのオススメは何ですか？
お料理教室を
開いたり。
ご近所の方を
招いたり。
パーティーを開きましょう
ゆずの木
毎年沢山なります。
おすそ分けしても喜ばれるかも
アイランドキッチンは
みんなでワイワイ
お料理するのにピッタリ!!
お料理自慢の方。
腕をふるってみませんか？
ウッドデッキの使い方も夢が
広がりますね。週末のブランチ？
日光浴？お茶に読書？
夜風にあたって飲むお酒なんていうのも、いいですねえ☆
家庭菜園でみんなで
作った野菜を収穫。
小さい畑だけど大地の恵み
いっしょにキッチンに立ってお料理しても、おいしい＆楽しい♪
カレーとかね
N
1F
大人だからこそ？
1人になりたい時もあります。
そんな時には、
自分のお部屋へ。
個室1
個室2
個室3
個室4
収納
収納
収納
収納
共有スペースと
個人の部屋をつなげる
階段ホール上部には、
大きな地棟丸太!!
これが見られるのは
住んでいる人だけの
特権。
"ロッヂ"っぽいでしょ？
東側2部屋は
出窓付き
2Fは6畳間の居室が4部屋
（もちろん各部屋収納付きです）
木組み＋土壁のマイルームで
心地よいひととき…。
2F
「ヨツバ・ロッヂ」平面図（図版作成：星野土建）

合理性を越えた、コミュニケーションへの欲求

しかし、シェアハウスが広がりつつある理由は、こうした合理性ゆえだけではありません。「集まって住む」ことで生まれるコミュニケーションこそが、シェアハウスを指向する若者にとって大きな魅力となっているのです。

同じ台所、同じ風呂を使うのですから、使う順番、何を共用して何が個人持ちなのか、掃除やゴミ出しはどうするのか、友人を招く時の約束事は？・・・などなど、さまざまなことについて、ルールを決め、守ることが必要となってきます。そうした面倒なことをむしろ楽しみ、地縁でも血縁でもない「シェアハウスの住人」間のコミュニケーションを積極的に育てていこうとする若者が、少しずつ増えて来ているのです。

日本の大家族制度が崩壊し、核家族化がどんどん進んでいった高度経済成長期。その先には、職場以外での会話はない、お金はあっても生存そのものに消えて行って好きなことにまでまわす余裕もない、隣人への無関心、はては孤独死・・・というような、さびしい生活？というような負の状況があるのも現実です。田舎の地縁血縁のしがらみの世界に戻りたいとは思わないけれど、まったくの自力ではなく、人と支え合い、助け合って生きて行きたい。そうした欲求をもつ若者が出て来ても不思議ではありません。家族ではない人同士の小さなコミュニティーで生きたいという欲求。それが、シェアハウスに追い風を吹かせているのです。

さまざまな形のシェアハウス

ひとくちにシェアハウスといっても、さまざまな形態があります。あらかじめの知り合い同士が「みんなで一緒に住もうか？」ということで、もともと一軒まるごとの賃貸物件を契約してシェアするという場合もあれば、あらかじめシェアハウスとして入居者を募集している賃貸物件で、初対面同士が一緒に住む場合もあります。男女混交、女性のみ、男性のみというところもあるでしょう。

日常生活をシェアする以上に、ある目的をもったシェアハウスもあります。昔でいえば、若い漫画家が集まって住んでいた「トキワ荘」のように、共通のテーマがあり、切磋琢磨し合うために、集まって住むケース。SOHO的にネット関係の仕事をしている個人事業主が数人、集まって住むシェアハウスもあるようです。機材や回線の共有や、場合によってはいっしょにひとつの仕事を手がけることもあります。あるいは、互いによい刺激を与え合うことをめざして、住人同士はもちろん、シェアハウスを訪れる人も交えての交流の場を積極的にもうけているところもあるようです。

星野土建さんで作ろうとしているシェアハウスは、どのような考えで企画され、どんなプロセスを経て作られているのか、工務店がシェアハウス運営することを通じて、どんなことを実現しようとしているかについて、いろいろなお話をお聞きしました。次ページからのインタビューをご覧ください！

Like 0　ポスト

1 2 3

ヨツバ・ロッヂの模型

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2019年6月15日

やさしくて強い、理想の家を求めて：アイ設計研究室　大前泰秀さん

2019年5月15日

磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所　西岡健一さん

2019年4月20日

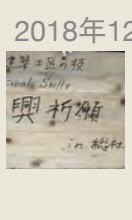
大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん

2019年4月10日

本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽　高橋一浩さん

2019年1月5日

新春特集 2018年のベストショット集

2018年12月29日

板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声＆今後の課題編

2018年12月17日

板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編

2018年12月14日

板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編

2018年9月4日

番匠 剱持工務店 副棟梁・剱持大輔さん

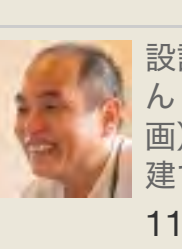
2018年8月15日

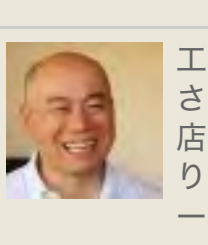
鶴岡総会予告 その１　散るより、生き延びよ！

人気のある記事

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
18件のビュー

家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
15件のビュー


設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
11件のビュー


工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー
8件のビュー

大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家
7件のビュー

設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家
5件のビュー

家にお風呂が入るまで
5件のビュー

サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート
5件のビュー

無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション
5件のビュー

新代表 大江忍インタビュー　これからの「職人がつくる木の家ネット」
5件のビュー

この記事のタグ

現場レポート

顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

2007年9月27日
大工・金田克彦さん(大┘(だいかね)建築)：幸せをつくる大工

2007年2月26日
工務店・宮本繁雄さん(建築工房 悠山想)：古びない家

2005年11月25日
大工・川村克己さん(川村工務店)：石場立ての家

2007年12月26日
宮大工・宮村樹さん(不動舎)：現場が先生

2005年7月25日
四天王幼稚園ワークスクール：ぼくがこれ、つくったんだ！

関連する記事はこちら

3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島福貴浦より

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

工務店・宮本繁雄さん(建築工房 悠山想)：古びない家

NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

現場報告：星野土建 星野将史
木組みと土壁のシェアハウス
入居者募集中!
同居人やご近所と心通う
ぬくもりのある暮らし

星野土建の星野将司さん

1 2 3

Like 0　ポスト

木と土の癒しの空間

ヨツバ・ロッヂはどんな家なのか、まずご紹介いただけますか？

星野さん　製材所で選び、手刻みした材を組み上げ、竹小舞を編み、土壁をつけた、本格的な伝統的な工法の家です。

星野土建でめざす家づくりそのものですね。それを、お施主さんからの依頼でなく、星野土建が所有し、賃貸する不動産物件として作られたということですね。

星野さん　はい、そうです。星野土建で出資しているので、うちで推奨する木の家づくりのモデル住宅として位置づけることもできますが、同時に、単身者向けの賃貸物件として、企画しました。うちは祖父の代からの地域工務店で、設計施工だけでなく、不動産管理もずっと手がけてきています。単身者向けの賃貸物件というと、ワンルームマンションが主流ですが、今回はそうではなく、シェアハウスとしてスタートします。木と土壁のシェアハウスというのは、ぼくの夢の実現でもあります。

どんな夢なのでしょうか？

星野さん　東京や横浜で若い人が借りる賃貸物件といえば、およそ新建材でできたワンルームマンションと決まっています。しかし、それでは、家に帰っても、さみしいし、くつろげない。家に帰った時に、木のぬくもりや香りがあれば、それは癒しの空間となり得るでしょう？ そんな魅力的な賃貸物件を、作りたかったんです。

それで、伝統的な工法で作ったんですね。

星野さん　そうです。自然が少ない、ストレスの多い都市部だからこそ、帰ってほっとする場所であるべき家は、木と土の空間であった方がいいと思うんです。けれど、単身者がそれを個人ではなかなか実現できない。だったら、うちで作って賃貸しよう、という発想です。

ほぞとほぞ穴が合うように、慎重に木を組んでいく

単身者でも人とのつながりをもてる暮らし

「帰ってほっとする家」としてのヨツバ・ロッヂを、戸建ての賃貸としてでなく、シェアハウスとして企画されたのは？

星野さん　ぼくが作りたいと思うぬくもりは、空間的なものだけではないんです。現代の都市の生活の中で、ワンルームで一人で暮らしていると、孤独や不安を感じる人も多いのではないでしょうか。人はもっと、触れ合い、あったかみ、話せる相手を求めてるんじゃないかなと思うんです。恋人と同棲するか、家族をもつとまで、いかなくてもね。昔は、下宿や共用廊下のアパートにそういった人間関係があったんですが、今は稀薄になっています。そうしたつながりを取り戻せる家ということで、ヨツバ・ロッヂをシェアハウスとして企画したんです。

どんな人に住んでもらうことを想定していますか？

星野さん　独身の社会人が希望です。男女混交で、単身者を４人募集します。人とのつながりや交わりを求めている人、というのがざっくりとした条件です。

日吉というと学生の街というイメージがありますが、学生はメインターゲットではないんですか？

星野さん　学生には、サークルやゼミ、バイト先など、学生特有の友人関係があります。ヨツバ・ロッヂにはむしろ、そういった人間関係が稀薄になりがちな、独身の社会人に来てほしいですね。

横浜市, 神奈川県
Google マップで見る
日吉のまちと ともに 150周年
日吉商店街
Google
キーボード ショートカット
© 2025 Google
利用規約
問題の報告

日吉駅西口に広がる駅前商店街。慶応義塾大学は反対側の東口側にある。

働き始めると、仕事や用事以外で人と話すことが激減する傾向があるようですね。

星野さん　そうなんです。上司や同僚との関係は、利害や上下の関係などがあって、どこか心を開ききれない。しかも、仕事を始めると、それぞれに忙しくなるので、学生時代の友人と会うことも減って、気づいてみたら、ごく限られた範囲の人間関係しかない状況になりがちです。

「社会に出る」とはいうけれど、結構世界が狭くなりがちかもしれません。働く場が違う同士が共同生活することで、そうした均質性や狭さから解放されますよね。

星野さん家に帰ると誰かがいて、お茶でも飲みながらその日にあったことをしゃべる、いっしょにテレビを見る、誰かの友達が来る・・そういった何でもないことが、ストレス発散、視野の広がり、好奇心の刺激などにつながると思うんです。

声をかけたり、かけられたりする人が相手がいる。恋人や家族でないけれど、日常的な交わりがあるということですよね。

星野さん　設備が共用だから節約できる、一人で住むよりも住環境がよくなる、というのも確かにシェアハウスの利点ですが、それ以上に、人とのつながりをもてる暮らしができるのが、何よりのメリットだと思いますよ。

地域に開かれたシェアハウス

星野さん　ぼくはヨツバ・ロッヂを、地域に開かれたシェアハウスにしたいんです！

ご近所の方ともつながるということですか？

星野さん　そうです。一軒家というのは、マンションとは違って、家の中だけを向いて暮らすのではない面があります。表を掃き掃除する時に近所の人と挨拶を交わすというようなコミュニケーションも生まれてきます。

たしかに、そうですね。

星野さん　近所というのは、さまざまな世代の人が交じって住んでいるコミュニティーです。若い人は世代同士に付き合いが限定されがちなのが、地域に開かれることでぐんと広がると思うんですね。

ヨツバ・ロッヂとご近所とのお付き合いは、どのように実現するのですか？

星野さん　ぼくが管理人として多少のお世話をしながら近所の人を招いていっしょにお茶を飲む「オープンハウス」ができたらいいな、と思っています。そう大げさなことではなく、ささやかなことでいいんですけどね。

オープンハウスでご近所の方とお話ができる関係性が生まれると、交わす挨拶に心がこもりますね。

星野さんせっかく星野土建が、賃貸物件をつくるのに、それがアパートやワンルームマンションであれば、地域との交流は生まれにくいですよね。一軒家のシェアハウスなら、その可能性があると思うんです。オープンハウスを通して、こんど一緒に料理しようかとか、味噌を共同で仕込まない？といった、世代間の交流が自然発生的にでてきたらおもしろいな、と思っています。

星野さんも星野土建の二階に住んでいらっしゃいます。星野土建さんのすぐ裏にあるヨツバ・ロッヂとは、まさにご近所になるわけですね。

星野さん　そう、ここはぼくが生まれ育ってきた場所ですが、昔からの家の住人は高齢化していて、そうでない後からできた賃貸は入れ替わりが激しくて、地域の顔が分からなくなっています。道ばたで行き交う人に「こんにちは」と挨拶しても、キョトンとされてしまうこともあって・・人がいないわけではないのですが、地域コミュニティーとしては、歯抜けのような状態になってしまっているんです。

人は多くても、さみしい状態なんですね。

星野さん　ぼくが子どもの頃は、いろいろな世代の人がいて、そんなに濃いつきあいではないにせよ、つながりはもっとありました。庭でとれたゆずを持っていくとか、挨拶を交わすといった程度のことなんですが、それが日常の潤いでもありました。ヨツバ・ロッヂが、ご近所づきあいの復活につながっていくといいなと思っています。

ヨツバ・ロッヂの「ご近所」づくりは、じつは、星野さんご家族にとっての「ご近所」づくりでもあるんですね！

星野さん　行き交う人は多くても、挨拶の声も聴かれず、見知った顔もない。そんなコミュニティーがない状態で高齢化社会を迎えたら、人はどうやって生きていくのでしょうか？ 医療や介護がいくら充実しても、心のつながりがない、さみしい状態では、生きてゆけないのではないかと思います。ツイッターやFacebookといったソーシャルメディアが流行るのも、結局は、つながりを求めているからでしょう？

都会での生活で稀薄になっているつながりを取り戻すひとつの方法としてのシェアハウスなんですね。星野さんって、結構、さみしがりやさん ？？

星野さん　図星です！

子どもたちと一緒に土と藁と水を混ぜていく。画面左端に見えている土置き場に寝かせて発酵させておいた土に、藁を混ぜて壁に塗る荒壁土を作っているところ。（土壁ワークショップ初日）

地域工務店の役割
人が集まる場づくり

星野さんがシェアハウス経営に踏み切った、その発想の根っこは、どこにあるのでしょうね？

星野さん　父の代に、年一回、工務店の中庭でお祭をやっていたんですよ。餅つきをしたり、野点のお茶席があったり、ステージで素人バンドが演奏したり、ちょっとした出店があったりね。12年続いていたんですが、手伝ってくれる職方さんが高齢化していたり、次を担う我々世代が子育てで忙しかったりするのもあって、おととしでやめちゃったんですよ。うちでお祭りをやり始めたことをきっかけに、かどうかは分かりませんが、近所の神社で餅つきが始まったり、地区センターのお祭りが復活したり、地域に対する役割は果たせたのかなというのもありましたしね。

納得してやめたはずなのに、何か、さみしいんですね？

星野さん　そうかもしれない・・・そういった、近所がワイワイ集まるきっかけづくりをするのも、地域工務店のひとつの役割なんじゃないかなって、思うんですよ。

落語に出てくる棟梁には、地域をまとめるカシラと言われるような人がいますね。

星野さん　ぼくは先に立ってガンガン引っ張っていくタイプではないんで・・ちょっと形を変えて、オープンハウスもいいかな、と。それも、工務店が主催するのでなく、ヨツバ・ロッヂのみなさんと一緒にやっていくという形でね。

行政が運営するのとは別の、こじんまりとした、あったかい人の輪ができそうですね。

星野さん　ぼくもそれを、楽しみにしています。そのために居間は広く、そして居間につながるウッドデッキも作ろうと思っています。ご近所でバーベキューしたり、生ビール飲んだりできたら、楽しいだろうなあ！

竹小舞用に、伐り出してきた竹を竹割り機で割る星野さん

入居者の暮らしのルールづくり
共同で暮らしをつくりだしていく楽しみ

ところで、ヨツバ・ロッヂを運営していくためのルールづくりも必要ですよね。そこはどうするのですか？

星野さん　こういうことって、多数決では、なかなかうまくいかないんですよね。しこりが残ったりもしますし。当面はぼくが管理人的な立場で関わって、大まかなルール作りはしようと思っています。

それにまつわる調整ごとって、大変じゃないですか？

星野さん　和を大事に、誰か一人にとっての最良とか理想に収めるのでなく、それぞれが少しずつ妥協する部分をもちあいながら、折り合いをつけていく、というようなことだと思うんです。ぼくは割と、そういうことには向いている性格かな。

食事も当番制だったり、ひとりずつだったり、共同の食費制をつくっている、ご飯だけは一日分をまとめて炊くなど、シェアハウスごとにちょっとずつ違うようですね。中には「そうじが得意な人はそうじ、洗濯が好きな人は洗濯」と、当番制ではなくて、好きなことを分担するところもあるとか。

星野さん　プライベートと共有の線引きなど、その時のメンバーで編み出していくベストな合理性があるんだと思います。ひとり暮らしでは傍若無人な暮らしかたをしていたとしても、ある常識というか、人と円滑に暮らすための最低限のラインを見つけていくんでしょうね。

家族でない誰かとの共同生活の経験は、一生の宝になりますね。結婚するなら、シェアハウス経験者！なんて言われるようになるかもしれないですよ！・・・どんなメンバーが集まるのでしょうね。

星野さん　ぼくも今から楽しみなんです。協調の精神で暮らしをつくりあげていくこと、近所と交流することなど、ヨツバ・ロッヂならではの特徴があるので、それを理解し賛同していただいた上での入居ということが大事だと思っています。先着順というのではなく、募集期間を決めて、応募のあった方と面接の上で決めたいと考えています。

入居者４人のバランスもありますしね！

星野さん　いずれ、入居者の中から、ヨツバ・ロッヂを自主運営していけるような、入居者兼管理人的な人が育ってくるんじゃないかと期待しているんですよ。

「めぞん一刻」好きだったでしょ？？

星野さん　もちろんです！

Like 0　ポスト

1 2 3

上棟の日の昼食。応援に来た大工たちも交えて、この日はみんなでいっしょに食べる。

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」 ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会 -民家改修と曳家-
2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
2017年9月4日 家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
2017年6月30日 気候風土適応住宅のススメ
2017年6月3日 掛川総会３
2017年5月31日 掛川総会２

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家 7件のビュー
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー
サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
家にお風呂が入るまで 5件のビュー
無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 5件のビュー
新代表 大江忍インタビュー　これからの「職人がつくる木の家ネット」 5件のビュー

この記事のタグ
現場レポート
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2010年11月26日 工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして
2007年12月26日 宮大工・宮村樹さん(不動舎)：現場が先生
2015年11月13日 工務店・小田貴之さん（オダエ務店）：木の家づくりのプロデューサー
2005年4月27日 サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート
2005年7月25日 四天王幼稚園ワークスクール：ぼくがこれ、つくったんだ！

関連する記事はこちら

3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島 福貴浦より

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

工務店・宮本繁雄さん(建築工房 悠山想)：古びない家

NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

現場報告：星野土建 星野将史
木組みと土壁のシェアハウス
入居者募集中！
シェアハウスづくりのプロセスもつながりを大事に

上棟の日の朝、模型を手に説明をする北山一幸さん（右）と星野将史さん（左）

1 2 3

ヨツバ・ロッヂ誕生を通じて人育て＆文化交流

今回は、大工棟梁が静岡の北山一幸さん、左官が和歌山の小山将さん、また、上棟には三重の池山琢馬さんや増田拓史さんと遠方から応援が来ていましたが、そのようなメンバー組にされた意図は？

星野さん　星野土建にも以前から木組みの家づくりを仕切ってくれている若林棟梁をはじめ、大工のチームは社員、外の人合わせて３〜５名で常に２〜４現場はまわるような体制になっていて、今もヨツバ・ロッヂ以外で３件の現場が動いています。社員の最年少の大工が上岡谷裕平といって、今、23歳。高校卒業後、大工育成塾の研修生としてうちに来た彼を、木の仕事をきっちりしてきている若林棟梁がみっちり育ててくれ、３年間の研修終了後、そのままうちの社員になりました。性格も素直で、若林棟梁に教わることをぐんぐんと吸収している彼を、いちど同じような伝統的な構法に取り組んでいる外の棟梁のもとに修業に出したら、さらに成長するだろうな、いう思いから、刻みの段階から裕平を北山さんにつけたんです。

星野土建の上岡谷裕平さん

刻みは三島にある、北山さんの加工場で？

星野さん　そうです。一ヶ月ちょっとの間、三島に泊まり込みで、北山棟梁の下で刻みをしてきました。刻んだ材と北山さんと一緒に横浜に帰ってきた彼は、もうひとまわり成長していましたね。羨ましいくらいでした。熱心で職人向きな、良い人間なんですよ。北山さんもその人柄を感じて、よく面倒をみてくれました。その後、三重にも地棟の丸太の加工に出かけていき、向こうでもかわいがられたようです。

ヨツバ・ロッヂの現場が、人育ての場にもなったんですね。

星野さん　私は設計からこの世界に入りました。大工ではありませんので、大工技術という面で裕平を育てることはできません。この人は、と思える人といっしょに仕事できる現場を経験させてやる、そういった場をつくるのが、ぼくのできる人育てなのかなと思います。

地方と都市のつくり手のコラボレーション 多様な意見の中から、考えが育つ

なぜ、北山さんと組んだのですか？

星野さん　ぼくが木の家ネットに入会して初めて出席した、川越での総会の宴会でいっしょの席で、知り合いのいない自分に話しかけてくれ、まわりの大工さんに僕を紹介してくれたり、目をかけてくれたのが、北山さんでした。いわば、木の家ネットでできた初めての仲間です。今回、北山さんに声をかけたのは、うちでいつもやっている梁通しの木組みを実践していて意思疎通がしやすいからということ、こちらでは機会の少ない土壁の家を普段からあたりまえに施工しているからです。けれど、それ以前に、そんな彼の人柄に惹かれていたからということが大きいですね。

技術も大切ですが、木の家づくりはチームでの作業ですから、相性もほんとに大事ですよね！

星野さん　仕事を進めていくうちに、つながりがつながりを呼ぶようにして、池山さんや増田さんも手伝ってくれました。上棟はうちの若林棟梁や現場監督も参加してのオールスター混成チームになりました。

星野土建の若林棟梁（右）

静岡や三重といった地方と横浜の都市部とでは、大分仕事のやり方が違うのではないですか？

星野さん　木組みも左官も、地方によって微妙に違った考えがあるますね。地域の違い以上に、地方と都市部との違いは大きいですね。都市部での施工には、土壁の防火性能や耐震性能もシビアに求められます。土壁の厚みをどう確保して木組みとのおさまりをするのか、土や竹小舞の施工方法など、互いにいろいろな意見を出しあいながら、今回の現場にとって最上だろうと思えることを選択して、施工しています。多様な意見の中から考えが育ち、人が育つ。今の現場はそんないい雰囲気で動いています。

各地から集まってきた大工たちが、息を合せて掛矢を振るう。

土壁体験がもたらしたもの 人の手で、近くにある材料で家は作れる！

土壁は、荒壁土に藁を入れて混ぜるところから、横浜の現場でされたんですよね。

星野さん　そうです。近所の人たちも、なにもない更地に土のプールがあらわれて、何が始まったんだろう？と興味津々でしたね。土に混ぜ込むための藁や、小舞を編む竹を、田んぼや竹林に行って調達するところからやったのは初めての経験で、僕自身もどろんこになって素足で壁土をこねたり、竹を割ったり、貴重な体験がたくさんできました。

小舞かきと土壁塗りは、ワークショップにしましたが、なぜそうされたのですか？

星野さん　家は買うものでなく、作るもの。すぐそこにある、自然の材料を使って作るもの。たくさんの「人」が関わって作るもの。そして作るのは、楽しい！そういったことを、ひとりでも多くの方に体験していただきたいという思いで、ワークショップにしました。参加者の中から入居したい人が出てくるというのが理想です。

自分が入居するシェアハウスに、土壁塗りから参加できたら、こんなにステキなことはないですよね！！

星野さん　ヨハナさんは、息子さんと小舞かきのワークショップに参加して、どのような感想をもたれました？

割り竹を小舞竹の間に差し込んで、縄できゅきゅっと縛っていく。その繰り返しで、土をつける下地となる小舞が出来上がっていく。そうした一連の作業を体験してみると、ああ、これは、田や里山のあるところに住んでいる、ごく普通の人の生活の中から生まれた、手に届く技術なんだなーと実感しました。もちろん、きちんとした仕上げや精度のある仕事はプロでなければできないことなんですが、小舞かきや土塗り壁といった基本的な技術は、やってみればできる！ということが分かって、嬉しかったです。セルフビルトなんていう言葉がなかった時代から、そうやってきたんですよね。星野さんは、いかがでしたか？

星野さん　ワークショップ当日のことではないんですが、池山さんと小山さんの粋な計らいでとっておいてくれててた地鎮祭の時の藁縄を使って、一カ所だけ、父と一緒に小舞かきをしたんです。ほんの短い時間でしたが、ステキな時間になりました。

お父様が工務店を継がれた時には、もう土壁の仕事はなかったとおっしゃっておられていました。初めての小舞かきが親子でできて、よかったですね！

星野土建の今後 集まって住む「シェアハウス」の可能性

上棟の後のお祝いでみんなで中華街に行った時に、紹興酒でほろ酔いのお父様に「将史さんのシェアハウス、どう思われますか？」と質問したんです。そしたら「息子の時代になってくんだから、思うことを思いっきりやっていってくれればいい」とおっしゃってましたよ。

星野さん　祖父の時代、父の時代があって、今の自分がいるわけでが、。高度経済成長期も過ぎ、環境や資源を意識せざるを得ない時代に入り、これまでとはまたちがった家づくりが求められています。私の考えを汲んで「やってみろ」と任せてくれる父に感謝しつつ、工務店経営者としてこれからの時代をよりよく生きることに取り組んでいきたいです。

星野将史さんの父で、星野土建社長の星野修司さん

ただただ頼まれた家づくりをする、というだけでなく、自然な家づくりの提案、地域づくり、人育て・・課題がたくさんあって、やりがいがありますね。

星野さん　そうですね。星野土建を支える大工、スタッフ、そしてまわりのみなさんといっしょに、明るく前向きにやっていきたいと思っています。

ところで、シェアハウス計画は、今回のヨツバ・ロッヂ一棟だけでない、今後の展開もあり得るのでしょうか？

星野さん　不動産経営もしている立場からいうと「あり」ですね。星野土建で賃貸しているワンルームマンションもあるんですが、一人分の専有面積は小さくても、設備はフルにかかるので、結構、施工費は割高になります。それだったら、設備にお金をかけるかわりに、木組み土壁の家にしてもいいんじゃないか、ということです。古びたワンルームマンションにはなんの魅力もありませんが、木組み土壁のシェアハウスなら経年変化とともに魅力が増していくので、シェアハウスとして使わなくなっても、家族用の賃貸や売家に転用することもできます。

なるほど！ 10年で魅力を失うものを作るより、賢い選択ですね。

星野さん　もうひとつは暮らしのインフラは共用でいい、ということの合理性です。ひとりひとりがひと通りの設備を揃えた家に住むというのは、割高以前に、無駄に近いことです。

給排水などの設備以外でも、冷蔵庫や洗濯機、テレビなど、一人暮らしなら買いそろえる家電類が、ほんとにひとりひとつずつ いるのかといえば、そうではないですよね膨大な消費だし、エネルギー消費量もばかになりません。

星野さん　今の人は、モノをもつという所有欲は少ないように思うんですよね。好きなものにはお金をかけたいけれど、家電一個一個を、自分で所有したいとは思わないでしょう？好きなものは欲しいけれど、好きなものにお金をかけるためにも、要らないものは所有しなくていい、という感覚は、あたりまえになりつつあります。

そうですね。たとえば、クルマが好きな人はもちろん自分の好きなクルマを買いたい。けれど、たまにクルマが使えればいいや、という人はカーシェアリングやレンタカーでいい。CDは買わなくても、レンタルやYouTubeで十分。そんな割り切り方が広がりつつありますよね。携帯電話やモバイル関係の利用料といった、以前にはなかったような出費もかさみますし。

星野さん　モノはひと揃い持たなくてもいい。そのかわり、人とのふれあいは欲しい。そういう人が増えているように思います。つながり、きずな、という言葉がやたらと使われているのもそのような傾向を象徴していますよね。

建設現場の横を通る地域の人が、声をかけてきてくれる。

「ネト充」「リア充」という言葉が一時はやりましたが、シェアハウスとはまさに「ネット上でなく、リアルな生活が充実する」ことです。生声で会話する、実際に会って何かする、そういうあたりまえのことが、見直されてきてもいるからこそ、シェアハウスが流行るんでしょうね。

星野さん　魅力あるシェアハウスをつくれば、人は入るし、入った人がそのシェアハウスを育ててくれます。人生がまだかたまっていない若い人が、木組み土壁のシェアハウスに住む体験をすることは、将来のその人の家づくりの選択肢にいい影響を与えることにもなります。

所有しないという考えからすると、木組み土壁の家には社会資本としての価値が高いといえますよね。ヨーロッパの都市の中心部では、古い石造りの家のワンフロアをリフォームしながら賃貸するということもごく一般的なことです。日本でも人の寿命より長い木の家が、そのように活用されていくといいですね。

星野さん　ヨツバ・ロッヂは、ワンルームマンションとは違って長寿命の家です。いったいどんな人が入れ替わりながら住んでいくのか、ヨツバ・ロッヂがどんな歴史をこれから刻んでいくのか、楽しみです！

何年か後にまたヨツバ・ロッヂでどのような暮らしが展開されているのか、取材してみたいですね。

星野さん　星野土建のサイトからリンクするヨツバ・ロッヂのブログも立ち上げる予定ですので、今後の動向をぜひみなさんで応援してくださいね。なお、シェアハウス入居についてご興味ある方は、星野土建のWebサイトに入居希望者エントリーフォームがあるので、アクセスしてみてください。わくわくしながら、お待ちしています！

1 2 3

上棟したばかりの頃のヨツバ・ロッヂ（撮影日：2012年11月19日15時）

関連する記事はこちら

3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島 福貴浦より

工務店・小田貴之さん（オダエ務店）：木の家づくりのプロデューサー

工務店・宮本繁雄さん(建築工房 悠山想)：古びない家

NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2016年12月23日 掛川総会
2016年8月2日 込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
2016年6月21日 熊本震災レポート2
2016年6月9日 大工たちによる「家戻し」の記録
2016年5月21日 熊本震災調査レポート
2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート
2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを探る 〜2016.1.17 京都フォラム報告
2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会 〜会員発表篇〜
2015年11月13日 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家 7件のビュー
新代表 大江忍インタビュー　これからの「職人がつくる木の家ネット」 5件のビュー
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー
サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
家にお風呂が入るまで 5件のビュー
無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 5件のビュー

この記事のタグ
現場レポート
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2004年7月25日 五月組：あのサツキとメイの家を建てる
2010年11月26日 工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして
2014年3月11日 3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島 福貴浦より
2011年4月25日 林業・岡崎定勝さん(岡崎製材所)：製材所からはじまる木の家づくり
2005年6月25日 伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464